



大阪大学  
OSAKA UNIVERSITY



おおきに健康

# 歯とお口から

大阪大学歯学部附属病院 広報誌

Vol.39  
2024年夏号

News  
Letter



副病院長 池邊 一典

梅雨が明け、夏本番を迎える季節となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。大阪大学歯学部附属病院の副病院長を務めております池邊一典でございます。いつも当院をご利用いただき、心より感謝申し上げます。

私の専門は、義歯を作る補綴（ほてつ）歯科と高齢者歯科です。高齢者については、歯を失うだけでなく、あごや舌の筋力の衰え、味覚や唇の感覚の低下、あるいは口の乾燥など、最近の研究でいろいろなことがわかってきました。それらの加齢変化を配慮した治療に取り組んでいます。

当院では、最新の医療技術の導入や診療体制の充実に加え、大学本部からの支援も得て、歯科医療のデジタル化にも積極的に取り組んでおります。デジタル技術の進化は、共有する医療情報の量と質を高め、診療の質を向上させるだけでなく、患者様とのコミュニケーションをより円滑にし、迅速な対応を可能にします。

本ニュースレターでは、歯科医療に関する最新情報や当院の取り組み、健康維持に役立つアドバイスなどをお届けしてまいります。皆様の健康を守り、安心してご利用いただける病院であり続けるために、引き続きご支援とご理解を賜りますようお願い申し上げます。どうぞよろしく願いいたします。

## トピックス

- 特集 1.  
ジェネリック医薬品って大丈夫？
- 特集 2.  
国際シンポジウム開催&  
病院間学術交流協定調印式挙行

## お口の相談コーナー お口のマメ知識

- ◆ 2024年4～6月の統計情報
- ◆ 病院概要



薬剤部 浦川 龍太

ジェネリック医薬品（後発医薬品）は、先発医薬品と同じ有効成分を同じ量含み、品質、有効性、安全性が同等であるとされています。先発医薬品の特許期間が終了した後に発売されるため、開発コストが低く抑えられ、患者さんにはより低価格で提供されることが多いです。ジェネリック医薬品は、以下の厳しい試験を経て厚生労働大臣の承認を受け、国の基準と法律に基づいて製造・販売されています。

1. 規格試験：有効成分の純度や量を確認
2. 溶出試験：先発品と同じように体内で溶けるかを確認
3. 生物学的同等性試験：有効成分の血中濃度が先発品と同じかを確認
4. 安定性試験：温度や光に影響されず、品質が長期に保たれるかを確認

ジェネリック医薬品は、上記の生物学的同等性試験により、先発品と有効性・安全性が同等であることを確認していますが、形や大きさ、色、味、添加剤は異なっても良いとされています。新薬と同等の品質、効果、安全性を持ちながら、服用しやすいように大きさや味・香りなどを改良した製品もあります。

日本におけるジェネリック医薬品の使用率は年々向上しており、現在は約8割に達しています。これは、厚生労働省がジェネリック医薬品の使用促進を進めている結果とも言えます。しかし、一部ではジェネリック医薬品の品質や流通に対する疑問もあるため、当院では、信頼できる情報源から得られる情報、国内における使用実績、後発品メーカーへの信頼性、流通状況などを参考に、ジェネリック医薬品を選定しています。

### その先には、ひろがる笑顔。

#### 安心・信頼 Anshin Shinrai

**国の厳しい審査をクリア**  
ジェネリック医薬品は、国の厳しい審査をクリアしたものが承認されています。有効性や安全性、品質も新薬と同等です。

**低価格で個人負担が軽くなる**  
新薬と同じ有効成分を使用し、開発費用が抑えられるので、低価格です。医療の質を落とすことなく、経済的負担が軽くなります。

#### 未来 Mirai

**医療費を有効活用**  
個人負担の軽減だけでなく日本全体の医療費の効率化が可能です。その医療費は新技術や新薬の導入に活用できます。

**医療保険制度を次の世代に引き継ぐ**  
少子高齢化が急速に進む中、現在の優れた医療保険制度を維持し、子どもたち次の世代に引き継いでいくことに貢献します。

口腔医療情報部

4月9日（火）、ミュンヘン・ルートヴィヒ＝マクスミリアン大学病院（以下、ミュンヘン大学）保存・歯周病総合診療所長のFalk Schwendicke教授をお招きし、国際シンポジウム“International Symposium on Oral Data-Science and Digital Dentistry in Data-Driven Society”を開催いたしました。また本院との病院間学術交流協定を締結するため調印式が執り行われました。

#### <共同プロジェクトの計画>

本院とミュンヘン大学は、オーラル・デジタルトランスフォーメーション（ODX）の推進、歯科医療情報プラットフォームの構築を目的とした連携を行います。本院では多くの疾患や治療方法に関する医療情報が蓄積されており、日本有数の歯科医療情報・データサイエンス研究開発拠点となるべく研究開発を進めています。この連携により、歯科医療情報に関する研究開発の拠点化を加速し、どの患者さんにとっても安心して信頼できる情報科学技術と融合した歯科医療の提供を目指します。

#### <将来的な展望>

本院とミュンヘン大学は本連携を、歯科医療におけるAI技術の確立や、診断・治療支援のためのAI駆動型ソフトウェアシステムの開発に貢献するものとしています。将来的には、学生の交流プログラムも計画されており、重層的な共同研究が持続的に行われることに期待が高まっています。このような取り組みを通じて、両病院は歯科医療の進歩と発展に貢献します。



### CT 検査の被ばく線量について

お口の相談  
コーナー



CT検査は、エックス線を人体に照射することで全身の輪切りの画像（断面像）を得る検査です。口や顎にできた病気の診断に非常に有効な画像検査法ですが、放射線被ばくを伴う検査ですので、被ばくによる影響を気にされる患者さんも多いのではないのでしょうか？

歯科領域でのCT検査の被ばく線量（放射線の量）は、1～4mSv（ミリシーベルト）程度とされています。軽い放射線障害として、一時的に皮膚が赤くなったり、毛が抜けたりといった症状が知られていますが、CT検査ではこれらのことは起こりません。

がんになるのではないかと

心配もあると思います。現在の議論では、100mSv以下の低線量で発がんのリスクがどの程度増加するかは、増加率が低すぎるため明らかにされていません。低すぎて誰も知る方法がないのですが、おそらく低い線量でも線量に比例して発生するであろうと仮定して考えています。つまり、1～4mSv程度という線量では、がんになるリスクは極めて低いと言えます。むしろ、肥満、喫煙、飲酒などの生活習慣のほうが体への影響は大きいと考えられています。また、放射線が体に蓄積されることもありません。

CTの線量を低くすると、画質が

放射線科 島本 博彰

悪くなります。画質が悪すぎると正確な診断ができない恐れが生じます。当院では、正確に診断できる画質を保ちつつ、被ばくをできる限り軽減できるよう1年に1回以上線量を検討し調整しておりますので、どうぞ安心して検査を受けて下さい。



### 歯ブラシだけでは、磨ききれない場所がある！？

お口の  
マメ知識



日本人が歯を失う二大原因は、虫歯と歯周病です。この2つの病気は、プラーク（歯垢、細菌のかたまり）が歯の表面や歯と歯茎の境目に付着し続けることで起こります。健康な歯とともに生涯を健やかに生きる…そんな思いを胸に秘め、毎食後歯磨きをされる方も増えてきました。しかし、歯磨き上手な方でもなかなか磨ききれない場所があるのをご存じでしょうか。

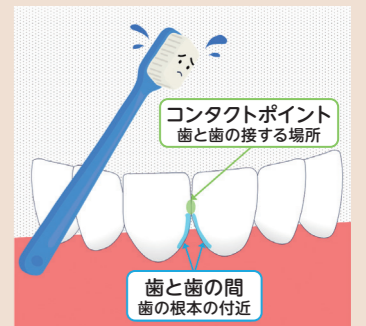
それは、①歯と歯の接する場所（コンタクトポイント）、②歯と歯の間（特に歯間部の歯の根元の付近）です。歯と歯が接した場所は、小さな細菌は入り込めても歯ブラシの毛先は物理的に入れない、虫歯がしやすいポイントです。歯間部

の歯の根元付近も歯ブラシが当たりにくく、しっかり歯磨きしているつもりでも、よく見るとプラークが残ったまま…。実際に歯周病の多くは歯間部から始まり進行していきます。お口には、歯ブラシで磨ききれない厄介な場所があるのです。

このような厄介な場所に付着しているプラークを取り除くために、普段の歯ブラシに+αで取り入れていただきたいお口の清掃道具がデンタルフロスと歯間ブラシです。歯ブラシだけでは、歯間部のプラークの除去率は40～60%ですが、いつもの歯ブラシにデンタルフロスや歯間ブラシも併用すると、歯間部のプラーク除去率が約80～

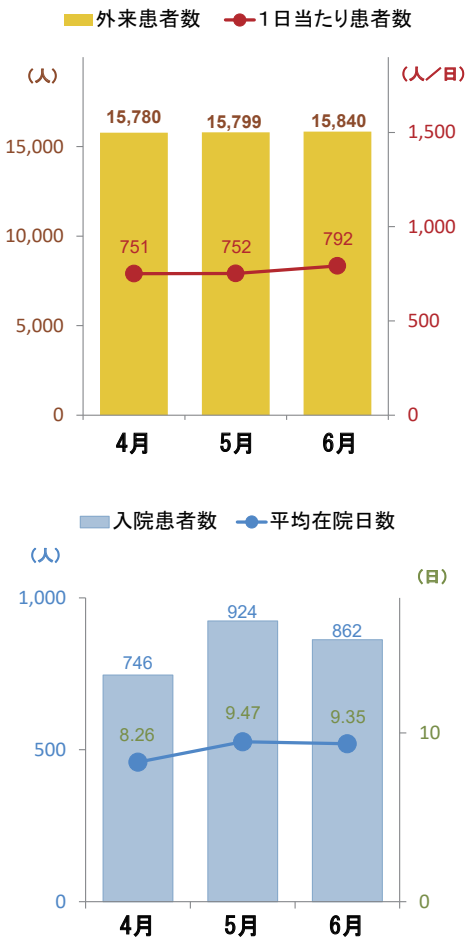
予防歯科 中村 恵理子

95%に向上します。今すぐ使いたい！そう思われたあなた、少しお待ちを。デンタルフロスや歯間ブラシは、誤った使い方をすると逆に歯や歯茎を傷つけてしまいます。正しい使い方は、担当医、歯科衛生士、そして予防歯科にぜひご相談下さいね。

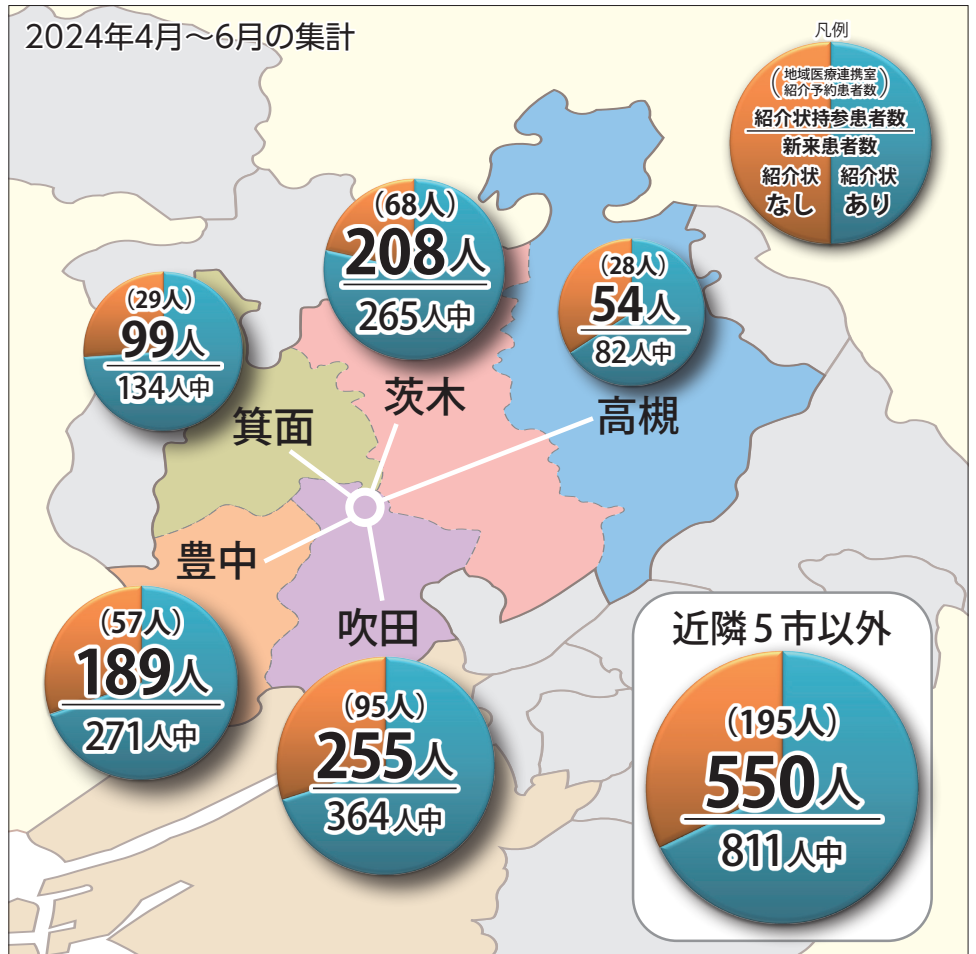


# 4月～6月患者数等統計

## 外来患者数・入院患者数



## 近隣5市の新来患者に占める紹介状持参患者数



## 病院概要



診療日：月～金 休診日：土日祝日、年末年始（12月29日～1月3日）

受付時間：【初診受付】8時30分～11時30分（初めて受診の方、紹介無し可）  
 【再診受付】8時30分～15時00分（原則として全科予約制）

住所：〒565-0871 吹田市山田丘1番8号

電話番号：（代表）06-6879-5111（時間外）06-6879-2848

標榜診療科：歯科、矯正歯科、歯科口腔外科、小児歯科

対象：予防歯科、う蝕（虫歯）、歯周病、補綴（冠、義歯、インプラント）、歯列不正、  
 口腔がん、口唇口蓋裂、障害者歯科、摂食・嚥下・発音障害、スポーツ歯科、口臭、  
 ドライマウス、睡眠時無呼吸、歯の外傷等

電話による病気や症状に対する相談には再診料がかかることがありますので、ご承知ください。

夜間休日の緊急診療につきましては、あらかじめお電話（06-6879-2848）のうえ、お越しください。

入院患者様へのご面会は新型コロナウイルス感染対策の観点から制限を設けています。詳しくは病院ホームページをご確認ください。

## 病院へのアクセス



歯学部附属病院にお車でお越しの際は、西門（歯学部門）よりお越しください。

## 看護師・歯科衛生士募集中！

—お問合せ—

歯学研究科総務課人事係  
 06-6879-2834 まで